# ひとみ(45)

## 第四十二回 人権週間

十二月四日(火)から十日(月)までは、「人権週間」です。

一九四八年(昭和二十三年)十二月十日、パリで開かれた国連総会で世界人権宣言が採択されました。この世界人権宣言は、世界の平和と人類の幸福を願って、人間はだれでも、その尊厳と価値が認められ、人間として当然持っている基本的権利が尊重されなければならないことを表明したものです。

わが国の「人権週間」も、この世界人権宣言の採択に由来しているのです。

本年の人権週間では、次の五つの強調事項を掲げ、もう一度自分の身のまわりを見直すことを呼びかけています。

◎国際化時代にふさわしい人権意識を育てよう
◎いじめ、体罰の根を絶とう
◎部落差別をなくそう
◎女性の地位を高めよう
◎障害者の完全参加と平等を実現しよう

なお、すでにお知らせしているように、町でもこの人権週間の期間中の十二月九日(日)、評論家の樋口恵子さんによる講演会を開きます。サブタイトルは「男女が共に成長するために」。女性も男性も、区別なく自分の問題として積極的に参加し、共に考え合いたいものです。

「人権週間」を機会に、私たち一人一人が、人権について再確認し、明るく豊かな社会をつくりましょう。

(社会教育課)

## 嫌煙権と火災

昭和五十三年「嫌煙権」という言葉が登場し、以来、人々が多く集まる駅構内、職場や家庭にまで「禁煙運動」が定着。愛煙家は年々減っているといいます。しかし、喫煙マナーの悪さは変らず、毎年「たばこ」による火災で貴重な財産や尊い人命が奪われています。

「たばこ」の火は小さいものですが、その温度は七百～八百度もあります。年間を通じて常に火災原因の上位にランクされています。

「たばこ火災」のほとんどは「投げ捨て」「消し忘れ」などの喫煙マナーの悪さが原因となって発生しています。

海田地区消防署熊野出張所

**熊野町の火災と救急**
平成2年1～10月末

| | |
|---|---|
| 火災件数 | 19件 |
| 損害額 | 3506万円 |
| 死傷者 | 5人 |
| 救急件数 | 385件 |
| 搬送人員 | 377人 |

平成2年度全国統一防火標語
**まず消そう**
**火への鈍感**
**無関心**
**火事と救急の問い合わせ**
**☎822-4349**
**海田地区消防組合消防本部**

## あなたを狙う覚せい剤(二)

覚せい剤を使用するようになると、行動面にも変化が現われてきます。覚せい剤の常習者は、一般的に社会生活に対する適応性が欠けている面がありますが、通常次のような特徴が見られます。

(一)腕やももなどに注射痕がある。暑くても長そでや包帯でその部分を隠す
(二)金使いが荒く、夜遊びが多くなり不良仲間と付き合うようになる。
(三)怒りっぽく興奮しやすく、突発的な乱暴を働く。何かにおびえたように一貫性のない行動がみられる。
(四)よくつばを吐き、水分をよく取り、よくしゃべるようになる。
(五)必要以上にキョロキョロして、態度に落ち着きがなくなる。

(社会教育課)

## 愛の献血協力者

十月十三日現在
敬称略

五回 林 保 新宮
井手本津夜子 初神
上岡 鈴江 出来
中原 明子 萩原
仲谷 亘弘 萩原
福山 弘子 出来
平 厚志 新宮
武田 雅博 出来
小沢 康子 中溝
仏円早百合 初神
瀬戸まゆみ 呉地
十回 石徳 香 町外
佐々木敬三 城之堀
奥道 敏江 萩原
穏土万里子 中溝
藤川 好子 萩原
十五回 福垣内英恵 萩原
久保田貞司 出来
光本 一也 城之堀
沖本 明美 呉地
二十回 五拾免康枝 萩原
高市 浩文 石神
吉田 忠義 出来
二十五回 東田 勇 初神
荒谷 精二 貴船
今村 純子 神田
森本 茂生 川角
四十回
四十五回

(環境衛生課)



# 表薬の目

## 「光」と「陰」②

ある日散歩しているとき、JRの線路の近くまで行ったら、線路の両側の狭い土地でも、いろいろな野菜が植えてあるのに気が付きました。それは中国とは随分違います。中国はあまりにも広いせいか、土地を無駄にすることなど多いのです。日本は狭い島国ですから、ごく狭い土地でさえ大事にするようです。このようなことにも日本の人の勤勉さが表われていると思いました。

次の日、私が大変感心したこのことを先生にお話しました。ところが、先生はこうおっしゃったのです。「本当は鉄道線路の敷地の中で無断で耕作することは禁止されているのですが…。だからよくないことなんです。公共の物を私物化しているわけですから……。」

それをお聞きしてびっくりしました。ナルホド！私は「光」を感じすぎたのでした。

ところで、私は日本に来てからよく日本の人に、「日本のあるいは広島に対しての印象はどうですか」と聞かれたりします。さあ、どう答えたらいいかしら。

私が一番感心したのは、歩道に目の不自由な人のために敷いたタイルの道なんです。初めてそれを見たとき、わざわざそのような道が敷かれたのは、たぶん日本には目の不自由な人が多いのだろうと思いました。ところがここに来て五年あまりの間に毎日町に出たりしていますが、目の不自由な方に出会ったことは十回ぐらいしかないのです。

こんなに数少ない人間のために、広島県や市などはあんなにたくさんのお金をかけて盲人用タイルの道まで作っています。私はそのことに大変感動しました。

そのような道ができあがると、目の不自由な方は安心して道を歩くことができるようになりますね。ところが、繁華街には自転車やオートバイがずらりと並んでいて、盲人用タイルの道の上まで置いてあるのをよく目にします。目の不自由な人が何も知らずにぱっとぶつかったらどうなるでしょう。

## 文化祭将棋大会

十一月四日 町民会館
敬称略

A級 一位 友井幸助
二位 菅田直幸
三位 大沢正則
B級 三位 池田敦志
一位 辻 照之
二位 上平 晃
三位 岩見覚行
C級 三位 山崎八百蔵
一位 向久保 隆
二位 碓井春男
三位 宮本倉三
三位 江本洋治

## 自分で作り出す健康

生涯学習とわたしたち 2

十一月六日、海田公民館で「人間尊重のゆきとどいた生涯学習の推進」をテーマに、第十回広島県社会教育研究大会が開かれました。シンポジウムの席上、国立広島病院副院長・鎌田達先生は、医師としての立場からみた生涯学習について、三つのポイントを挙げて話されました。

① 成人病が増えています。血圧が高い、心臓が悪い、糖尿病、肥満……これらは、子どもの頃からの食生活にもその原因があり、「習慣病」と呼んでもよいものです。家庭の食をあずかる人の責任は重大です。健康は与えられるものと思われがちですが、学習によって自分でつくり出し、守っていくものなのです。

② 集団生活に適応できない大人が増えています。不平、不満が多いために寝られない、食が進まないと、入院してからかえって症状が悪くなる場合もあります。「動物性」、とでもいうべき強さがなくなってきているのではないでしょうか。

③ 病院とは、治療するだけでなく、「死ぬ所」でもある、これは動かせない事実です。自分とは、家族とは何なのか、と思わされる毎日です。日ごろから、自分の死への自覚や、愛する人との別れを見つめる機会が必要です。

このようなご指摘でしたが、特に③については、先生の亡きお父様が注射の前に「もういいよ、準備はできた。しかし、お前たちの気持ちの準備がまだなら、打ちなさい」と言われたという、考えさせられるエピソードを紹介され、「死ぬ者だけが別れるのではない、元気な者も、別れる準備をしておかなくては。生涯学習でも避けて通らず、学習課題として、もっととり上げていくべきでしょう」と結ばれました。

(社会教育課)